

# 受難節第1主日

〈神の招き〉	前奏		
	招きの詞	イザヤ書43:1~3a	
	交読詩編	91:1~13	
	讚美歌	19	
〈神の言葉〉	聖書	創世記17:1~6	(旧約 新共同訳 21頁)
		ローマの信徒への手紙4:13~17a	(新約 新共同訳 278頁)
	祈禱		
	讚美歌	57	
	説教	「信仰と約束」	熊江秀一牧師
	祈黙		
	讚美歌	458	
〈神への応答〉	使徒信条		
	献金の祈り		
	頌栄	27	
	派遣と祝福		
	後奏		

## 今週の御言葉(ローマの信徒への手紙 4:13)

神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。

## 次週の礼拝(2月28日) 音声配信

説教「あなたのために祈った」 高橋真之伝道師

詩編130:1~8、ルカによる福音書22:31~34

交読詩編107:1~9 讚美歌16、56、402、27

### ■今週の祈禱課題■

独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為
2. 東日本大震災・九州豪雨による被災者の為
3. 地区、教区の宣教の為
4. 新型コロナウイルス感染終息の為
6. 病気の兄姉の為

### \*関東教区お祈りカレンダー

加須教会、菖蒲教会、和戸教会

◇先週の説教より「信仰と割礼」 創世記15:4~6、ローマ4:7~12節

熊江秀一牧師

パウロはダビデの歌を引用し、神の民の幸いを歌った。それはこの世の繁栄でも、成功でもない。神が罪を赦し、受け入れて下さる幸いである。

この幸いを受けるのは誰か。割礼を受けたユダヤ人か。割礼のない人にも及ぶのか。これはパウロの時代の教会にとって問題であった。

これに対してパウロは、再びアブラハムを引用する。アブラハムは信仰によって義とされた。その後割礼が施されたのである。割礼とは信仰によって義とされたしるしである。契約を結んだ時の印鑑のように。しかしそれは「しるし」にすぎない。割礼ではなく信仰こそが大切である。

神が私たちと結んで下さる契約は、割礼と関係はない。一方的な恵みの契約である。アブラハムが信仰によって義とされたのは無割礼の時であった。これは彼の働かない時とも、彼が異邦人だった時とも読むことができる。

しかし神はそのアブラハムに恵みにより臨み、信仰を義とされた。何の誇るべきものも持たない者が、何の功績もない者が、ただ神の恵みを受け入れたという信仰、これがアブラハムの信仰である。私たちはそのアブラハムの「信仰の模範(足跡)」に続くのである。

しかし私たちはこの道を知っていながら、そこから迷い出る。そして割礼のような目に見えるもの、この世の誉れをよりどころとし、罪と滅びへと進む。その現実にはキリストが踏み込んで下さり、命がけて探し求め、救い出して下さった。今、私たちはキリストにあってこの道へと招かれている。

この救いの道へ立ち返ろう。不信心な者を義とされる恵みの信仰へ、罪人を赦して義と認めさせて下さる恵みの信仰へ、働きがなくても神の民として下さる恵みの信仰へと立ち返ろう。そこに私たちの幸いがある。